

第9号様式の別紙1

補助事業成果書

1 補助事業の実施方法

① 情報発信（通信の発行、HP や SNS の作成）

- ・ 既存のホームページ、SNS は季節のイベント前に計画的に情報発信を行い、参加に繋げるための情報を住民に届けるよう工夫を重ねた。

Facebook : いいね! 125・フォロー128→いいね! 186・フォロー201→いいね! 225・フォロー245

- ・ Instagram フォロワー数 : 53→142→448

- ・ 公式LINE : フォロワー46→75→77 (友達193)

- ・ 年間計画を載せた「bajico 通信 vol.4」とシャルソンチラシ、キャンドルナイトのチラシ3点を大学生から立候補を受け、団体、担当課3部門でコミュニケーションを図りながら発行した（今年度の重点事業の柱の一つでもある「大学生と共に活動する実」にも対応）。



- ・ 団体と親和性の高い広報先、担当課と親和性の高い広報先をそれぞれに見極めて事業周知や参画を促すよう役割分担した（団体:地域住民や個店など、担当課:町会、区内他部署など）

② 機運醸成（季節のイベント開催、パンフレット増刷）

- ・ 季節のイベント : 年間4回のbajicoichiの開催を軸に、全体ミーティング、準備会をスケジュールに組み込み、地域住民の声を生かしたデザインしながら学生も交えて実施することができた。

5/15(日)	『くるくる bajico』
6/4(土)	在来馬イベント (『日本在来馬に乗ろう』)
6/27(月)	6月27日 全体会@ULALA
7/15日	準備会@ULALA (絵本読み聞かせは中止)
7/18(祝)	『bajico の夜市』
9/11(日)	ゆるっと bajico
9/19(月)	シャルソン告知イベント(台風接近につき縮小開催)
9/28(水)	準備会&全体会
10/5(水)	準備会

10/10 (祝)	『世田谷 bajico シャルソン』
11/21(月)	全体会
12/4(日)	キャンドルづくり WS@ハタケ
12/7(水)	準備会
12/23(金)	bajico のキャンドルナイト
1/20(金)	bajico 交流会

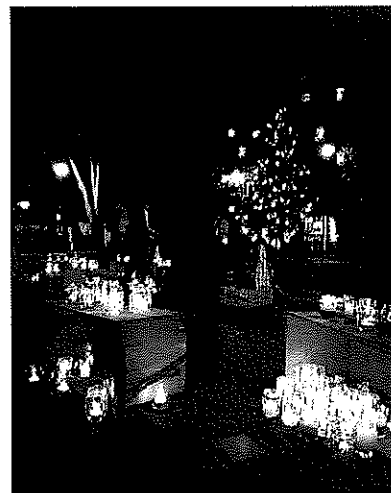


- ・パンフレット増刷：300部増刷

③ 大学生と共に活動する

東京農業大学福岡研究室、昭和女子大学鶴田研究室において研究室のプログラムとして本事業への協力が定着した。

- ・「bajico 通信 vol.4」「シャルソンチラシ」「キャンドルナイトチラシ」を学生によるデザインで発行。
- ・福岡研究室のゼミ開催日に合わせて、イベントの準備会を複数回実施し、キャンドルナイトの際には物品の貸し借りやノウハウ共有など、学校を越えた学生同士の協力体制が生まれた。
- ・SNSから関心を寄せる学生などが現れ、次年度の事務局メンバーに参加の可能性が生まれた。



2 補助事業の成果の具体的内容

① 会議体に地域住民を巻き込む

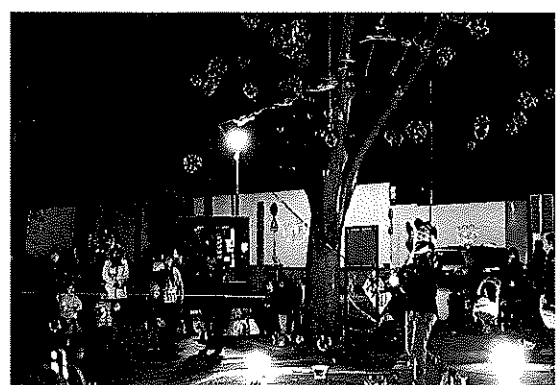
- ・ 「hajicoメンバー登録フォーム」を作成し、常時アクセス可能な体制を整備したところ、SNS他のツールから地元住民のアクセシビリティが向上した（Bajicoichi 出店者を含む 2022 年度新規メンバー 29 名）
- ・ 活動を継続することで、少しずつ認知が広がり、趣味や特技を活かした活動への参加や、「次回の Bajicoichi に子供が参加したいと言っている」という声や（7月のイベントで実現）、「去年のクリスマスキャンドルがきれいだったので楽しみだけどうつやるの?」という高齢女性から問い合わせを受ける等、生の声を実現する機会が増えた。



- ・ Bajicoichi へのアイデアや準備会に地域住民を募り、統一感のある設えの為のテーブルクロスやフラッグの作成をおこない、住民と学生の交流機会を増やすことができた。



- ・ 町会長会議、まちづくり会議等で事業紹介することで、町会掲示板での告知が可能になった。用賀駅前の掲示板を見かけた地元のミュージシャンからのアプローチがあり、12月のキャンドルナイトで活躍いただいた。各自で助成金や趣向を凝らして毎回参加する地域住民も現れた。



- ・ 大学生の参画が2大学の2つの研究室で定着し、研究室内の縦のつながり、大学を超えた横のつながり、地域住民とのつながりが強く複雑になってきた。
- ・ 障害のある子どもも参加できるイベントや環境についての経験が積み上がり、インクルーシブなムードが醸成されていることを感じている。



- ② 地域の個店の掘り起こしやイベント出店への働きかけを依頼し、生活動線に沿った告知、広報を展開する
- ・ 地域店舗との関係構築

10月に実施したシャルソンで参加者向けの「謎とき&立ち寄りスポット」を近隣店舗数件に依頼した。登録いただいた店舗には特典を準備いただき、参加者の立ち寄りを促した。協力店舗である上用賀「Café+8101」が、本事業に賛同してくださり、イベント終了後も継続的に bajico で何が出来るかを事務局メンバーと熱心に打ち合わせできる関係構築ができた。年末に bajico メンバーの忘年会を開催し、年明けにはお店と bajico のコラボレーション企画「ピザ作りキャンペーン」を実現することができた。SNS での拡散による集客も成功し、win-win の結果を生み出すことができた。



・ 生活に近い場での常設活動の実現 (bajico の畑、以下ハタケ)

本事業を知った区内他部署からの声かけで、区立桜丘農業広場の暫定利用の公募の機会に恵まれた。これまでの活動はイベント中心になりがちだったが、メンバー同士が日常的に活動できる常設の場につながると考え、応募した。bajico メンバーより 4 人が運営のコアメンバーに手が挙がり、10 月よりけやき広場以外でも交流が促進されている。ハタケで廃油キャンドルワークショップを開いて製作したキャンドルを後日「bajico のキャンドルナイト」で灯したり、bajico メンバーで収穫したハタケのみかんを Bajicoichi で販売したり、bajico の SNS から情報を得てハタケ活動に参加する地域住民も少なからずあり、けやき広場とハタケが循環し、相補的に機能していけそうな兆しがみられている。



③ 事務局機能の明確化

- ・ 活動の担い手となる地域住民が増えたことで、これまでよりも事務局としての機能や役割が明確になった。
- ・ 継続的な活動への一歩として「Bajicoichi 出店規約」を整備し、出店希望の住民や法人、商店主など活動趣旨と照らし合わせながら出店調整の面談を重ねた。
- ・ 提案型協働事業であることから区内他部署からの注目度も高く、関係機関のイベント開催時に共催を依頼された他、Bajicoichi でのコラボレーション、「都市デザインフォーラム」での事例報告など、発信先が広がった。
- ・ フォーマルな連携先の確立として「せたがや文化財団音楽事業部」「交通安全自転車課」「進化生物学研究所」との関係構築ができた。ステークホルダーとしての参画だけでなく、各部署の関係者が一個人としてもイベントへの参加を楽しみ、参画いただいた姿勢に事業の本質への理解を感じることができた（市民活動推進課からの参加も同様に）。





3 成果の自己評価

- 都市デザイン課のネットワークと amigo (団体) のネットワークを活かした事業展開を進めることができた。互いの強みを理解し合うことで対等な関係性を保ちながら信頼を深めることができた。
- 長年未整備だった「Bajiooichi 出店規約」を整備したことで事業収入の見込みとその限界を見極めることができた。提案型協働事業最後の一年に向けて意義のある気づきを得ることができた。
- これまでの周知活動が少しずつ実を結び、事務局の想定を超える事業提案やコラボレーション企画に恵まれた。地域にはまだ掘り起こしきれていないニーズやアイデアがあると感じたこともあり、次年度の事業計画に反映させていきたい。
- 「bajic のハタケ」という常設の場を持つことで、本事業のテーマである「人と人とのつながり」「心の豊かさの再確認」を具現化する場面をたくさん生み出すことができた。名ばかりの成果ではなく、質の高い「世代や属性を超えるつながり・活躍の場の創出」が実現できた。質を保ちながら量的なつながりをどう展開できるかを検討していく段階が見えてきた。
- 本事業が「まちづくり」という文脈だけでなく「オリパラレガシー」の一つのあり方としても一定の評価を受ける機会にも恵まれた。今後の「まちづくり」の深化に向けて貴重な視点を持つことができた。